

10年ぶりの中国訪問

たけいち
武市 こうじ
浩二

●自動車総連・副事務局長

私が初めて中国に行ったのは、今から10年ほど前になります。当時、中国での車両生産を開始し、出向者・出張者の生活環境などを調査することが訪問目的でした。

上海・南京・重慶の3都市を訪問した印象は、街にはいたる所でクレーンが立ち建設ラッシュ、街は活気が満ちて、生活環境や労働についても大きな問題はなく、中国ビジネスが成功裏に進展し、これから中国経済は更に急成長を続ける。そのような国だと感じました。

今回、定期開催しているソーシャル・アジア・フォーラムに参加するチャンスがあり、10年ぶりに中国を訪問しました。“廈門（アモイ）？”正直、聞いたことがなくインターネットで情報収集しました。

廈門は、福建省南部の九竜江河口付近、簡単に言うと台湾海峡を隔て台湾と向かい合う位置にあり、1981年に経済特区が設置され、人口約243万人、主に台湾資本を集めて経済成長を続けている華南地方最大の港湾都市です。

訪問目的は、「新情報技術が雇用、労働に与える影響と労働組合の役割」をテーマに中国・韓国・台湾・日本の労働組合関係者・労使関係研究者が論議を行うことです。

議論の結果としては、4カ国それぞれに国情の違いはあっても、共通の課題を抱きかかえていることが明らかになったことです。

議論とは別にして、中国で経済特区として設

置された都市の経済発展するスピードはあまりにも早く、現在の上海・南京・重慶に於いても想像以上の発展をしていると思うと、世界をリードしていく中国経済の勢い、影響力などを10年前よりも痛感しました。

しかし、その陰には新たな現象・取り巻く情勢・問題・課題が絶えず生じていることも事実です。

第4次産業革命は、AIロボット・IoT・ビッグデータの活用により産業に大きな変化をもたらし、雇用や労働に影響を与えると考えられます。すでに新情報技術の発展によって働き方も大きく変化をしています。

我々の自動車産業に於いても100年に1度という産業革命が目前に迫っています。どんな影響を与えるのか？ 及ぼす影響の可能性は？何が問題なのか？ 重要課題として捉え、早期に解決を進めていくことが求められます。

この10年で中国が更に発展してきたスピードと情勢を見ると、我々がこれまで経験をしたことがないスピード・情勢がもたらす影響への対応を図っていくプロセスのなかに、グローバルな社会のなかで産業が生き抜ける道筋が見えてくるのではないかと思います。

これまで以上に、労働組合が果たす役割は重要性を増し、労働が抱える諸問題の解決に向けて進展し、早急に実現していかなければなりません。